

第3学年竹組 体育科学習指導案

令和3年10月26日（火）5校時

授業者 江原 秀

1 「お手伝い大作戦」

2 授業づくりの構想

(1) 運動の持つ特性

表現運動は、感じたことや、思いなど心の動きを体の動きで表現したり、自己の心身を解き放って、リズムやイメージの世界に没入して、なりきって踊ったりすることが楽しい運動である。また、互いの違いや良さを生かし合い、仲間と交流して踊る楽しさや見せる喜びを味わう事が出来る運動である。

中学年では、表現運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、題材の特徴を捉えた多様な感じの表現と全身でリズムに乗って踊る学習を通して、即興的に表現する能力やリズムに乗って踊る能力、友達と豊かに関わり合うコミュニケーション能力などを培えるようにし、高学年の「表現運動」の学習につなげていくことが求められる。

心と体をほぐして楽しむ表現運動を通して、自信をもって自己表現したり、仲間と共感し合ったりする中で、よりよい人間関係を育てることが着たいできる運動である。

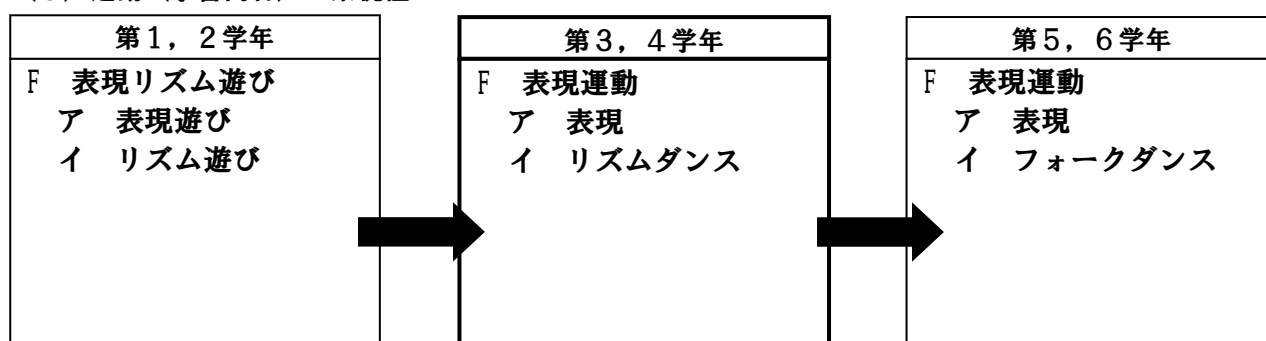
(2) 児童の実態

本学年の児童は、全体的に運動に対する興味・関心が高く体を動かすことが好きである。

令和2年度に実施した体育の学習に関するアンケートでは、「体育が好きである」と回答した児童が75%であり、多くの児童が体育学習に高い興味関心を持ち、前向きに学習に取り組んでいる。また、体育が好きな理由について「できなかったことができるようになるから」「自分のタイムや記録に挑戦できるから」の項目において肯定的に回答した児童が80%を超えており、自己の学習の成果を振り返る場面が子どもの体育学習の充実に繋がっていると考えられる。

また、昨年度の表現遊びでは、グループで楽しみながら動物を表現することはできたが、体を大きく動かして誇張して表現したり、創造力豊かに動きをつくりだすことができたりする児童はごく少数であった。

(3) 運動（学習内容）の系統性



(4) 単元の目標

【知識及び技能】

表現運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、身近な生活などの題材から主な特徴や感じを捉え、表したい感じをひと流れの動きで即興的に踊ることができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

自己の能力に適した課題を見付け、題材やリズムの特徴を捉えた踊り方や交流の仕方を工夫するとともに、考えたことを友だちに伝えることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】

表現運動に進んで取り組み、誰とでも仲よく踊ったり、友だちの動きや考えを認めたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。

(5) 単元構成の意図（指導の意図）

- 1 「何のためにするのか」
本単元では、子どもにとって身近な「お手伝い」を題材にすることで、表現の世界に入り込みやすいようにする。学習の中で児童は様々なお手伝いの場面の表現方法を考えるが、児童一人一人が持つイメージは異なる。教師が、児童個々が持つ捉え方や表現方法の違いの多様性を認めることで、児童は自由に表現することができる楽しさを味わう。また、個人やグループで表現を創っていく中で、良い動きの児童や友達の動きをよく見ている児童を教師が認め、自信を持たせる。それによって、さらにダイナミックな動きができるようにしていく中で、自分らしさを表現することのすばらしさを感じとらせたい。
- 2 単元構成の工夫
体・リズム・空間・人間関係からなる4つのくずしの習得が児童にとってスムーズになるよう、それらを各時間ごとに分け、系統立てた単元構成になるようにした。活動①では毎時ポップコーンを題材として表現し、その日の核となる学習内容であるくずしの工夫を児童の発言や動きの中から教師がピックアップし、全体に共有する。活動②では、そのくずしの工夫を特に意識してひと流れの動きをグループで考える。第2時、第3時と、新たなくずしの工夫を児童が得ていくことで、活動②でのグループでの動きづくりにその工夫が加わっていくようにしたい。
- 3 ウォームアップタイムについて
毎時間の導入では準備運動をかねて表現につながる動きを経験させるウォームアップタイムを設定した。この常時間では、新聞紙と風船などの用具に児童一人一人がなりきって全身運動を行い、体のいろいろな部分を使った動きをすることで、4つのくずしにつながる動きを経験させるとともに、表現に対する抵抗感をなくさせたい。
- 4 ねらいをつかむための工夫
各時間のねらいとする動きは、学習活動の中から児童自身が見つけ出せるよう支援していく。良い動きをした児童には、「なぜその動きを選んだのか」「どんなこだわりを持って表現したか」を問いかけ、全体で共有する。また、その動きがより際立つにはどのように体を使えば良いかを考えさせる。教師が児童の直接的な動きを示すのではなく、児童自身がより良い動きを求めることができる問題解決の学習を意識していきたい。

(6) 単元の「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方

関わり	中学年	具体的な活動・姿
する	・身近な生活などの題材から主な特徴や感じを捉え、表したい感じをひと流れの動きで即興的に踊る。〈知識及び技能ア〉 ・課題の解決のための活動を選ぶ。〈思考力、判断力、表現力等ア〉 ・表したい感じをひと流れの動きで踊ったり、軽快なリズムに乗って全身で踊ったりする運動に進んで取り組む。〈学びに向かう力、人間性等ア〉	・グループで決めた題材についてくずしを意識しながらひと流れの動きで表している。 ・Chromebookで撮影した自分の動きを見て、改善するためにはどうしたら良いか考える。 ・題材についてくずしを意識しながら、積極的に活動に参加している。
みる	・自己の能力に適した課題を見付ける。〈思考力、判断力、表現力等ア〉	・Chromebookで撮影して、自分の動きを確認し、改善点を見付ける。
支える	・課題解決のために考えたことを友達に伝える。〈思考力、判断力、表現力等イ〉 ・表現に取り組む際に、誰とでも仲よくする。〈学びに向かう力、人間性等イ〉 ・表現での友達の動きや楽しく踊るための友達の考えを認める。〈学びに向かう力、人間性等エ〉 ・友達とぶつからないように周りの安全を確かめて踊る。〈学びに向かう力、人間性等オ〉	・撮影した動画を見ながら、気付いたことを友達にアドバイスする。 ・グループの友達と協力して取り組んでいる。 ・友達の動きや考えを認め、仲良く活動に取り組んでいる。 ・友達のアドバイスを受け入れ、自分の動きを修正する。 ・場の安全に気をつけて踊る。
知る	・表現では、その行い方を知る。〈知識及び技能ア〉	・体、リズム、空間、人間関係のくずしを捉え、体全体を使った表現の仕方を知る。 ・ICTや学習活動を通して、表現をすることの楽しさを知る。

(7) 単元の流れ及び評価の計画

		1	2	3	4（本時）	5	6
主なねらい		学習の進め方を理解しよう。	体・リズム・空間・を使って表現しよう。			発表会をしよう	
核となる学習内容		・学習のねらいと進め方	体のくずし ・体の向き ・大きく、小さく	リズムのくずし ・速さ ・動く、止まる	空間のくずし ・スペースを使う	・ひと流れの動きを考え表現する ・友達の良い動きを見付ける	
			人間関係のくずし はなれる・くっつく・からまる				
学習活動		・オリエンテーション ・準備の仕方、安全な活動の仕方 ・生活にある出来事を出し合う	<ウォームアップタイム> ・体ほぐし（新聞、風船）			・グループに分かれて、動きを工夫しながら発表会の練習をする。	・発表会
			活動① 本時のねらいに沿って、生活にある出来事を表現しよう。				
			・体の工夫 動きの誇張や向き、角度に変化を加える。	・リズムの工夫 途中で動きを止めたり、速さを変えたりして体を動かす。	・空間の工夫 移動の方向や上下左右の空間の使い方を考える。		
			活動② グループで生活場面を表現する。 ・ポップコーン ・洗濯 ・おもちゃ ・ハンバーグ ・おそうじ ・皿洗い				
評価の計画	知	①（観察）			②（観察）		③（観察）
	思			①（観察）		②（観察）	
	態		②（観察）	③（観察）		④（観察）	①（観察）

具体的な評価基準	知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	① 表現運動の行い方を理解している。 ② 身近な生活などの題材から主な特徴や感じを捉えることができる。 ③ 表したい感じをひと流れの動きで即興的に踊ることができる。	① 自己の能力に適した課題を見付け、題材やリズムの特徴を捉えた踊り方や交流の仕方を工夫している。 ② 考えたことを友だちに伝えている。	① 表現運動に進んで取り組もうとしている。 ② 誰とでも仲よく踊ろうとしている。 ③ 友達の動きや考えを認めようとしている。 ④ 場の安全に気を付けようとしている。